

離転職者等職業訓練「介護福祉科」募集案内 訓練生募集

県立和歌山産業技術専門学院では、下記のとおり訓練生を募集しています。
受講を希望される方は、住（居）所地管轄のハローワーク窓口までご相談ください。

◇訓練科目 「介護福祉科」

◇訓練施設 和歌山YMCA国際福祉専門学校
和歌山市太田一丁目12番13号
(厚生労働省指定 介護福祉士養成施設)
TEL 073-473-3338

1. 訓練期間 平成29年4月4日（火）から平成31年3月15日（金）〈2か年〉
2. 募集定員 20名
3. 対象者 公共職業安定所長から受講あっせんを受け、介護福祉士として就職をめざす方。
高等学校卒業または、同程度の課程を修了していることが必要です。
(高等学校等の卒業を証する書面が必要。大学卒業証書でも代用可能)
平成29年3月大学・高校等卒業予定者は対象としません。
4. 訓練経費 無料。ただし、教科書代、実習着等の費用は自己負担とします。
(2年間で230,000円程度)。
5. 募集及び選考
 - ・平成29年2月6日（月）から平成29年3月23日（木）まで。
 - ・住（居）所地を管轄するハローワークで相談のうえ、訓練受講申込書にて所定の手続きをしてください。
 - ※訓練受講申込みとは別に訓練施設の入学願書等に高等学校の卒業を証する書面（卒業証書のコピー・卒業証明書等）を添えて直接訓練施設に3月23日（木）中までに提出する必要があります。
 - ・平成29年3月26日（日）に訓練施設において面接、作文（800字程度）による選考を行います。（受付9:00～9:25 選考開始9:30）
6. 訓練時間等 原則 月曜日～金曜日（土、日、祝日休み） 1日6時間程度
但し、訓練施設のカリキュラムにより、宿泊訓練や夜間実習、土・日・祝日も訓練を行なう場合有。
7. 通学 和歌山YMCA国際福祉専門学校では、マイカーによる通学は認めておりません。公共交通機関利用の通学となります。
8. 訓練概要 介護のスペシャリストとして、高齢者や障害者の介護にあたる国家資格としての「介護福祉士」をめざします。高齢者や障害者を援助する上で求められる専門的な介護技術の取得の他、人間理解、社会や福祉制度の理解、そして医学など、幅広い知識と技能を習得します。
9. 取得目標とする資格 介護福祉士
10. その他 平成29年度和歌山県予算が成立しなかった場合、又は厚生労働省との協議が整わなかった場合、本事業は実施しません。また、定員数に関し厚生労働省との協議で変更となる場合があります。

一定の要件を満たす方は「求職者支援制度」により「職業訓練受給給付金」の支給等を受けることができます。詳しくは、ハローワークにお問い合わせください。

問い合わせ先
和歌山県立和歌山産業技術専門学院
和歌山市小倉90 土山・船瀬・榎・吉村
TEL 073-477-1253

委託訓練カリキュラム

| | | | |
|---------------|---|--|------------------------------------|
| 訓練科目 | 介護福祉科：和歌山 | 就職先の職務 | 高齢者あるいは障害者のための福祉施設または病院や居宅介護事業所など。 |
| 定員 | 20名 | | |
| 訓練期間 | 平成29年4月4日 ～平成31年3月15日 | | |
| 訓練目標 | 厚生労働大臣指定の介護福祉士養成課程のカリキュラムを中心に、介護のスペシャリストとしての幅広い知識と技能を習得する。 | | |
| 取得目標資格 | 介護福祉士（国家資格） | | |
| | 科 目 | 科 目 の 内 容 | 時間数 |
| | 入所式・修了式 | 学校行事の入学式・修了式・各オリエンテーション等 | 10 |
| | 人間の尊厳と自立 | 人間の多面的理解と尊厳の保持の必要性について | 30 |
| | 社会福祉援助技術 | 障害者自立支援制度の理解について | 30 |
| | 社会の理解 | 社会福祉の意義と理念を理解する 介護実践に活用できる制度の理解 社会保障の理解と活用できる制度の理解 | 60 |
| | 人間形成論 | 人間関係形成へのコミュニケーション能力の習得 | 30 |
| | 心理学 | 自分への気づきと可能性の発見について | 30 |
| | 音楽表現 | 音楽という手段を用いたレク財の活用法を学ぶ | 30 |
| | 障害者海洋活動支援概論 | 海を舞台に障害者への活動支援法を体験する | 30 |
| | 介護概論Ⅰ・Ⅱ | 介護の意義と役割及び専門性について学ぶ | 180 |
| | コミュニケーション技術 | 適切なコミュニケーションの実践力を養う | 30 |
| | 点字と手話 | 点字や手話についての知識と基礎的な技能習得 | 60 |
| | 生活支援技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ | あらゆる介護場面における個別支援技術を学ぶ | 150 |
| | 介護実技Ⅰ・Ⅱ | 基礎から専門性の高い介護の技術と実践力を養う | 180 |
| | 介護過程Ⅰ・Ⅱ | 介護過程の意義・目的そして必要性を理解する | 150 |
| | 実習指導Ⅰ・Ⅱ | あらゆる介護場面に対応できる実践力を養う | 120 |
| | 発達と老化の理解 | 老化に関する心理や身体機能の変化についての理解 | 60 |
| | 認知症の理解 | 認知症の理解と基礎的知識の習得 | 60 |
| | 障害の理解 | 障害と障害者福祉の理解と介護の視点を習得 | 60 |
| | 医学概論 | 専門職との協働に必要な基礎的医学知識の習得 | 60 |
| | こころとからだのしくみ | 介護技術の根拠となる人間の内外面への理解 | 60 |
| | 医療的ケア | 痰の吸引等の在宅介護の先端技術の習得 | 90 |
| | 救急法 | 日赤の救急法救急員の資格を取得する | 30 |
| | 就職支援 | 就職活動の進め方 | 30 |
| | ホームルーム | グループワークによる仲間作りの実践 | 30 |
| | 国家試験対策 | 国家試験合格のために特別授業を行う | 60 |
| | | 小 計 | 1,660 |
| 実 習 | 施設介護実習Ⅰ・Ⅱ | 段階ごとのテーマに沿って施設で現場実習する | 528 |
| | オリエンテーションキャンプ | | 15 |
| | 卒業研修旅行 | | 35 |
| | | | |
| | | 小 計 | 578 |
| | | 合 計 | 2,238 |
| 就職支援の具体的内容 | 服装、話し方、立振舞い等マナー全般についての講習、施設（就職先）選択の方法、面接試験の受け方指導、履歴書の書き方指導、具体的な就職先の紹介 | | |
| 使用する機械・器具・教材等 | 移動、入浴、排泄等々あらゆる介護場面に想定される器具、道具を使う。 （例）介護用ベット、車椅子、杖、浴槽、様々な補助具など | | |

※学科には、入所式・修了式、各オリエンテーション及び就職支援を必ず盛り込んでください。

※行数、ページ数は適宜調整してください。